

きらり★保健師だより



発行日: 2022年7月22日

編集: 医療生協さいたま
保健師職能部会

保健予防、健康に生活できるまちづくりと一緒に

2022年度は埼玉協同病院に8名、埼玉西協同病院に1名が配属され、1年目をスタートしています。今回は、埼玉協同病院の外来看護科Ⅱに配属された3人をご紹介します。

①保健師を目指した理由は？

②入職から3か月、今の率直な気持ちは？

③いま頑張っていることは？

④この3か月間のなかで一番うれしかったことは？

宗像 奈々さん

(福島県出身・ボリス保健看護学院卒)



①病気になる前の患者さんに関わって病気を予防したり、重症化予防に興味があったため。

②まだまだわからないことばかりですが、先輩方が一つ一つ丁寧に教えてくださるので、楽しく働いています。

③自立してできることが少しでも増えるように頑張っています。

④採血で「全然痛くなかったよ」と言われたこと。患者さんから「たくさん話を聞いてくれてありがとう」と言われたこと。

増田 莉奈さん

(福井県出身・埼玉県立大学卒)



①地域で暮らす人々が健康に生活できるようなまちづくりをするお仕事に興味を持ったから。

②だんだんできる業務が増えてきて、充実しています。

③外来では幅広い知識が求められるので、勉強の日々です。

④問診をとった時に、患者さんから「丁寧に聞いてくれてありがとう」と言ってもらえたこと。

林 日暖さん

(富山県出身・富山大学卒)



①市の健康増進センターに職場体験で行き、保健師としての予防活動に興味を持ちました。

②できることが増えるよう頑張っていきたいです。

③少しでも自立してできる業務が増えるよう、積極的に動くことを心がけています。

④患者さんから感謝の言葉を頂いた時。採血が取りにくいと言われている患者さんの採血が取れた時。

企業とのコラボで地域の健康度をUP！ 健康講座 @ウエルシア薬局



ウエルカフェは、ウエルシア薬局が地域貢献の一環として地域住民に「休息の場」「井戸端会議の場」「情報発信の場」として提供しているフリースペースです。

埼玉協同病院の保健師職能部会では、2021年12月から近隣のウエルシア薬局で地域の組合員とともに健康講座・健康相談を定例開催しています。

毎回保健師2名が参加し、「感染症対策」「血圧のはなし」「熱中症予防」など、参加者のニーズや季に合わせた様々なテーマで講義や体験を行っています。参加者からはたくさんの質問が出され、「わかりやすかった」「勉強になった」「今後も参加したい」など嬉しい声もたくさんいただき、保健師の新たな活躍のフィールドとして、保健師がやりがいをもって取り組んでいます♪



「地域診断」「ヘルスプロモーション」活動の報告がされました

2021年3月、一年の集大成として医療生協さいたま看護学会※が各地域ごとにオンライン開催されました。そこでは、7名の保健師から活動報告や研究発表があり、全発表者の27.3%を保健師が占めました。演題のテーマとしては、地域診断や患者へのヘルス

プロモーションなど、保健師ならではの視点での報告が多くみられました。2022年度もたくさんの報告ができるよう、さまざまな活動にチャレンジしていきましょう！

※医療生協さいたま看護学会…1年間の看護活動や看護研究をまとめ、全県の規模で交流しあう場。目的は、①「看護の質の向上と看護職の育成」②「私たちの看護研究を全国に発信していく契機」③「学習講演を通し、看護について考える」。法人内看護職員だけでなく、看護奨学生も参加することができます。

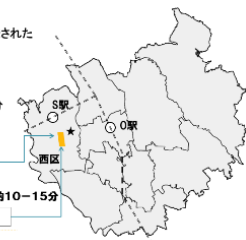
≪2021年度医療生協さいたま看護学会 保健師 発表者一覧≫

発表者	事業所	演題名
高林 由佳	埼玉協同病院	術前の禁煙指導における他部門連携の実態 ～継続した禁煙に繋がる支援体制の確立を目指して～
三久保 宏子	埼玉協同病院	脳卒中チームの発足と再発予防へのアプローチ -急性期治療開始時からの患者教育-
有江 天寧	埼玉協同病院	病棟における保健師の取り組み -患者と職員のメンタルヘルスに着目して-
中島 祐子	埼玉協同病院	保健師部会の立ち上げと活動報告 -保健予防・ヘルスプロモーションの推進者としての役割発揮 を目指して-
森尾 みのり	さいわい診療所	地域診断を通して、見えてきた地域の課題 -地域にある診療所の保健師としてできること-
川口 渚	熊谷生協病院	高齢者の表皮剥離の現状と対策
佐野 真由美	埼玉西協同病院	SDH（フレイル）問診の取り組み ～地域に根差し寄り添う看護の実践から見えるもの～
長沼 美貴子	おおみや診療所	地域診断からみえた健康課題 ～診療所保健師としてできること～
水谷 愛美	熊谷生協病院	キーパーソンが定まらない中での意思決定支援 -地域包括ケア病床でACPの実践を考える-

Plan:P地区の地域診断

【S市西区のほぼ中央
農地の中に住宅地として開発された】

【直通バスなし
JR S駅からバス5分下車
徒歩8分
JR O駅からバス30分
(混雑時1時間)
P地区
徒歩約10～15分
A診療所】



↑長沼 美貴子さん「地域診断から見えてきた健康課題」から



↑中島 祐子さん「保健師部会の立ち上げと活動報告」

2022年度保健師教育要綱のご紹介（キャリア1：1年目～3年目）

1年目

ヘルスプロモーションやSDH等に関連する学習講演を通して、法人のヘルスプロモーションの理念と活動の意義について理解を深め、職能を自覚する

①地域の健康づくり活動に1回以上参加、見学し、参加者のヘルスニーズをキャッチする。

（例；フードパントリー、班会、健康まつり、支部活動（安心ルーム、健康ひろば等）

②保健師活動交流集会に参加し、保健師の役割や活動理念の意義について自分の言葉で表現する。

2年目

地域の保健予防活動で、個別保健指導ができる
（個人および家族への支援）

①職場や地域で開催されている健康チェック・健康相談の実施要員として参加、住民への保健指導をおこなう。

（例；フードパントリー、イオンやウエルカフェなど商業施設等、トラックの日行動

②個別保健指導について、対面もしくは研修参加報告書で先輩保健師と振り返りを行う。

③11/19埼玉県看護協会保健師職能委員会研修「保健師専門研修-面接の基礎-」に参加する

3年目

小集団に対して、ヘルスプロモーション活動の講師を1回以上担当する（集団への支援）

①健康講座の計画、実施、評価についての学習会

②先輩保健師の見守りのもと、法人内の小集団（10人程度）への講座で講師を担う。

（例；地域の健康講座、外来患者／デイ利用者やフードパントリー参加者、イオンやウエルカフェでの健康講座、健診結果返し班会）

③先輩保健師と振り返りを行う

2年目では個人へ、
3年目では集団への
支援を経験していき
ましょう☆

